企業局第4次経営計画の進捗管理

外 部 評 価 用

≪ 電 気 事 業 ≫

令和5年10月18日

経営計画委員会

目 次

第4次経営	計画に掲げる経営管理指標の内部評価一覧(電気事業)・・・・・・	1
山口県企業	局第4次経営計画の実施状況(電気事業)・・・・・・・・・・・	2
<目標管理:	カード>	
(電気①)	経常収支比率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
(電気②)	平瀬発電所建設事業の進捗率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
(電気③)	リパワリングの進捗管理・・・・・・・・・・・・・・・	7
(電気④)	小水力発電所の開発箇所数・・・・・・・・・・・・・・・	9

第4次経営計画に掲げる経営管理指標の内部評価一覧(電気事業)

● 電気事業 4項目

级兴体证化	評価結果						
経営管理指標	R1	R2	R3	R4	R5		
経常収支比率	В	А	А	В			
平瀬発電所建設事業の進捗率	В	С	С	В			
リパワリングの進捗管理	В	В	С	С			
小水力発電所の開発箇所数	В	В	В	В			
A:計画を上回る	_	1	1	_			
B:ほぼ計画どおり	4	2	1	3			
C:計画を下回る	_	1	2	1			

山口県企業局第4次経営計画の実施状況(電気事業)

山口県企業局第4次経営計画(計画期間:令和元年度~令和10年度)に掲げる計画を着実に推進するための経営管理指標の実施状況は次のとおり

経営管理指標	内容				t i	実		績								
 1 経常収支比率											(%)					
	まえた売電方法の検討	年周	F	R1		R2]	R3		R4	R5					
	・経費支出の効率化、計画	・経費支出の効率化、計画	・経費支出の効率化、計画	・経費支出の効率化、計画	・経費支出の効率化、計画	・経費支出の効率化、計画	目標	Ę	110)	110	1	10		110	110
	的な施設整備	実績	岜	112.8	37]	121. 19	119	9. 22	11	3.00						
	・効率的な発電の実施	差		+2.8	37 +	+11. 19	+9	. 22	+;	3.00						
2平瀬発電所建	・平瀬発電所建設事業の										(%)					
設事業の進捗	計画的な推進	年度	F.	R1		R2]	R3		R4	R5					
率		目標	Ę	40		55	8	30		95	100					
		実績	Ę	39. 3	3	43. 3	5	1. 7	9	2.6						
3リパワリング	リパワリングの計画的				((進捗	率 ((%)	又	は進捗	管理)					
の進捗管理	な推進	発電点	斤		R1	1 I	R2	R3		R4	R5					
			菅野	₹	目標	90) 1	00	_		_	_				
			菅野	,	実績	93.	2 1	00	_		_					
		井 目1		目標	90) 1	00	_		_	_					
	-					生見川	' , -	実績	93.	1 1	00	_		_	_	
			│ │徳 山 ・		目標		- 調	查業務	_		_	詳細設計				
			NGV F	۱ ,	実績		- 見	送り	調査第	業務	_					
		佐波		目標		- 調	查業務	詳細記	別計	製作	製作					
			,	実績		- 実	施		Ī	計画変更						
		新阿武		目標		- 調	查業務	_		_						
		7011 12 0	' '	実績		- 美	施	_		_	_					
4 小水力発電所 の開発箇所数	・発電所未設置ダム等の 未利用落差を活用した 小水力発電所の開発	_ : :	_	令和		年度	まで 3 箇		箇	所						

目標管理カード(電気①)

令和4年度

				7444度
経営	管理指標	経常収支比率	<u>3</u>	
担	当 班	経営・技術企	画班	
取糸	狙 方 針		ム改革の進展を踏まえた売電方法のあ 基づく適正な収入の確保、経費支出の 電の実施	
主星	要 目 標	経営の健全性	この確保 こうしゅう	
目	標 値	1 1 0 %		
効	果	経営基盤の強	紀	
		年	度 別 進 行 状 況	
年度	取組	内容	取組実績	効 果
1	方検討	方法のあり な施設整備 な発電	 ・非化石価値取引市場や容量 市場への対応検討 ・国等の動向など情報収集 ・「施設整備10か年計画」の着実 な実施 ・発電停止期間の抑制 	目標・収支計画 を上回る経常収 支比率 112.87% (計画比+6.27 p)
2	方検討	-	・非化石価値取引市場の対応検討・容量市場への参入・国等の動向など情報収集・「施設整備10か年計画」の着実な実施・発電停止期間の抑制	目標・収支計画 を上回る経常収 支比率 121.19% (計画比+9.88 p)
3	方検討	方法のありな施設整備な発電	 ・非化石価値取引市場への対応検討 ・容量市場へ適切な対応 ・国等の動向など情報収集 ・「施設整備10か年計画」の着実な実施 ・発電停止期間の抑制 	目標・収支計画 を上回る経常収 支比率 119.22% (計画比+10.59 p)
4	方検討	方法のあり な施設整備 な発電	・非化石価値取引市場への対応検討・容量市場へ適切な対応・国等の動向など情報収集・「施設整備10か年計画」の着実な実施・発電停止期間の抑制	目標・収支計画 を上回る経常収 支比率 113.00% (計画比-0.06 p)
5				

1 年間計画 (評価を受ける年度に係る計画概要)

- 〇 長期契約終了後の売電契約方法のあり方について検討
- 施設整備10か年計画に基づく計画的な施設整備の実施
- 気象予測に基づくダム貯留水の有効利用等により、効率的な運転に努める

2 達成度分析(項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析)

項目	計 画	実 績	差 異
経常収支比率	113.06%	113.00%	計画△ 0.06 ポイント
経常収益 (主な減少理由)	1,579 百万円	1,536 百万円	△43 百万円
電力料	(1,501 百万円)	(1,462百万円)	(△39 百万円)
経常費用 (主な減少理由)	1,397 百万円	1,359 百万円	△38 百万円
修繕費	(357 百万円)	(283 百万円)	(△74 百万円)
効率的な発電	発電計画会議の実施	発電計画会議を実施 し、過去の流況や気 象情報を基に運用計 画を策定	

3 事業評価

年度	R1	R2	R3	R4	R5	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり
評価	В	А	Α	В		C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 〇 経常収益については、平年に比べ降水量が少なかったため(平年比約 70%)、電力料 収入が減少したこと等により、計画を43百万円下回る見込み。
- 経常費用については、修繕費の減少等により、計画を38百万円下回る見込み。
- これらの結果、経常収支比率については、計画を 0.06ポイント下回るが、目標値 110%に対しては上回る見込となっている。

4 課題及び問題点/今後の事業展開

【課題及び問題点】

○ 令和5年度で長期契約が終了するため、引き続き必要な料金収入を確保し、安定した経営基盤を確保していくことが必要。

【今後の事業展開】

○ 令和5年度実施した公募型プロポーザル方式による売電方法について検証すると ともに、小売電気市場の相場や他県の売電方法等について情報収集を行う。

目標管理カード(電気2)

令和4年度 経営管理指標 平瀬発電所建設事業の進捗率 当 担 班 発電班 取組方針 平瀬発電所建設事業の計画的な推進 主要目標 水力発電の供給力の向上 平瀬発電所建設事業の進捗率 標 値 目 (R1:40%, R2:55%, R3:80%, R4:95%, R5:100%) 効 果 地域資源を活かした新たな電源開発 年 度 別 進 行 状 況 年度 取 組 内 容 取 組 実 績 効 果 適切な進行管理の実施 1 平瀬発電所建設工事の施工 進捗率 39.3% 建築開始(2か年) 2 上屋の建設開始 進捗率 41.4% 建築実施 上屋建築の実施 進捗率 51.7% 3 水車・発電機据付 水車・発電機の据付実施 進捗率 92.6% 4 5

1 年間計画 (評価を受ける年度に係る計画概要)

- 〇 水車発電機製作据付工事。
- 監視制御装置の製作・据付。

(※東部発電事務所にて発注の工事に平瀬発電所の監視制御装置分が含まれている)

2 達成度分析(項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析)

項目	計 画	実 績	差 異
平瀬発電所建設事業	水車発電機製作据	R4 据付	計画どおり
の計画的な推進	付工事 据付		
	監視制御装置の製	設計製作	繰越(据付はR5年度
	作・据付 		とし、R4年度の出来 高はなし)。
			同はなし/。
	総事業費に対する	総事業費に対する	監視制御装置で工程
	進捗率95%	進捗率92.6%	を見直したが、全体工
			程に支障なし
			(Δ2. 4ポイント)

3 事業評価

- , , , ,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
年度	R1	R2	R3	R4	R5	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり
評価	В	O	O	В		C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

〇 水車発電機関係

R2~3年度に設計製作を終え、R4年度は計画どおり据付がおおむね完了した。

〇 監視制御装置関係

半導体供給不足による納期遅れが生じたが、工場での機器製作は着実に進められた。 このため、R4年度の出来高はないものの、事業の全体工程に影響はない。

○ 総事業費に対する進捗率は、目標95%に対し、実績92.6%となった。

4 課題及び問題点/今後の事業展開

【今後の事業展開】

- 平瀬発電所建設事業は、ダム建設事業と一体的に工事を進めていく必要があるため、 引き続き、関係機関と緊密な連携をとりながら、適切な進行管理に努める。
- O 計画前半の目標は概ね達成できる見込みであり、計画どおり令和6年度に運用開始 を予定している。

目標管理カード(電気③)

令和4年度

									7和4年度
経営管理	経営管理指標 リパワリングの進捗管理(進捗率(%)又は進捗状況)								
担当	i 班	発電班	含電班						
取 組	方 針	 対象発電所にお	sけるリ/	パワ	リリングの	進行管理			
主要	目標	リパワリングの	計画的	な推	進				
		進捗率(%)又	は進捗	管理	1				
		発電所/年度	R1		R2	R3	R	24	R5
		菅 野	90		100	_	_	_	_
目標	[値	生見川	90		100	_	_	_	_
		徳山	_		調査業務	_	_	_	詳細設計
		佐波川	_		調査業務	詳細設計	製	作	製作
		新阿武川	_		調査業務		_		_
効	果	既設発電所の電	力量增加	加					
		年	度 別	進	行 状	況		T	
年度	E	取組 内容			取 組	実 績		郊	果
1		ンナ製作工事の実 ・生見川発電所)]な進行管: 景を据付	理を行い、	製作	†	幾器据付
2	工事(菅野・生見川) 調査(新阿武川・佐波川)				E試験の実施 記力量の調整	-			力量+3% 力量確認
3	3 調査(徳山発電所)			増電	意力量の調	查実施		増電	力量確認
4	4 実施設計(佐波川発電所)				ニューアルトを実施	に向けた実	施	最適を確	な施設規模 認
5									

- 1 年間計画 (評価を受ける年度に係る計画概要)
- 〇 佐波川発電所のリパワリング工事(機器製作・機器据付)の発注

2 達成度分析(項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析)

項目	計 画	実績	差異
	佐波川発電所のリパ	リニューアルの実施	佐波川発電所につい
佐波川発電所	ワリングエ事の発注	設計	ては発電設備全体の
	R 4 (製作)		老朽化に伴いリニュ
			ーアルを行う。

3 事業評価

年度	R1	R2	R3	R4	R5	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり
評価	В	В	С	С		C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

〇 工事:計画の変更

佐波川発電所については発電設備全体の老朽化が予想以上に進行していたため、リニューアルも含め総合的に検討した。リパワリングと採算面を比較考慮した結果、リニューアルを行うことした。(令和5~9年度計画)

4 課題及び問題点/今後の事業展開

【今後の事業展開】

- 〇 令和5~9年度に佐波川発電所のリニューアル工事を行う。
- 令和10年度までに、新阿武川発電所のリパワリングを計画している。
- 徳山発電所については、リパワリングに伴う送電設備の改修及び送配電事業者の接続検討に時間を要すことが見込まれることから、令和5~8年度では通常OHとしての整備を行い、令和19年度に向けて大規模な改修をするよう検討している。
- リパワリング事業、リニューアル事業などにより総合的に供給力の向上を図れるよう、経営計画及び施設整備 1 0 か年計画の見直しを行う。

目標管理カード(電気④)

令和4年度

経営管理指標	小水力発電所の開発箇所数
担当班	発電班
取組方針	新たな水力発電所の開発を行い、発電の供給力向上を図る。
主要目標	小水力発電所の開発推進
目 標 値	令和10年度までに3箇所
効 果	小水力発電の普及

年 度 別 進 行 状 況

年度	取 組 内 容	取組実績	効 果	
1	小水力発電所の開発	詳細設計や事業性評価 の実施	3 発電所の検討実施	
2	小水力発電所の開発	詳細設計や事業性評価の実施	3発電所の検討実施	
3	小水力発電所の開発	建設工事や事業性評価の実施	1 発電所の建設及び 2 発電所の検討実施	
4	小水力発電所の開発	建設工事や事業性評価の実施	1発電所の建設及び 2発電所の検討実施	
5				

- 1 年間計画 (評価を受ける年度に係る計画概要)
- 〇 小水力発電所の建設工事、採算性評価の実施

2 達成度分析(項目毎に「計画」「実績」「差異」による分析)

項	目	計	画	実	績	差	異
小水力発電所の開発		川上ダム地点		建設工事着手		計画どおり	
		弥栄ダム減勢槽地点		 採算性再評価 		_	
		黒杭川上流タ	びム地点	採算性再評価		_	

3 事業評価

年度	R1	R2	R3	R4	R5	A・・・計画を上回る B・・・ほぼ計画どおり
評価	В	В	В	В		C・・・計画を下回る

【計画と実績の差異分析】

- 令和4年度は、計画どおり3箇所の小水力発電の開発を推進した。
- 〇 評価にあたっては、開発まで時間を要するため、進捗状況も踏まえる。 ※採算性の確保が前提

4 課題及び問題点/今後の事業展開

【課題及び問題点】

○ 小水力発電の開発については、建設費用等の高騰などから、採算性の確保が難しい 状況。

【今後の事業展開】

実施設計の結果を踏まえ、事業性評価を再検討中